

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 8 回 中山間地域医療検討会		
事務局 (担当課)		医療政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 2 3 0 (直通)		
開催日時		令和 8 年 2 月 6 日 (金) 1 9 時 0 0 分 ~ 2 0 時 3 0 分		
開催場所		ウェブ開催 及び 津久井総合事務所 2 階会議室		
出席者	委員	1 3 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人		
	事務局	9 人 (健康福祉局長、医療政策担当部長(兼)医療政策課長、 地域医療対策室長、在宅医療・介護連携支援センター 所長 他 5 人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部 不可の場合は、 その理由				
議 題		1 開会 2 会長あいさつ 3 議題 (1) 基本方針に基づく取組について ア ロジックモデルの取組状況について イ 情報共有 (ア) 藤野地区診療所再整備基本計画の策定について (イ) 訪問型オンライン診療について (ウ) 乗合タクシーの利用実績について 4 その他 (1) 今後の検討会について 5 閉会		

議 事 の 要 旨

1 開会

2 会長あいさつ

3 議題

(1) 基本方針に基づく取組について

事務局より資料に基づき、説明した。

(金子亜古委員)

乗り合いタクシーなど行政で取り組んでいるが、訪問看護を行っている中で介護タクシーが見つからずに困ったことがあった。

予約をすればスムーズに頼めるが、急病や特に17時を過ぎると、どこも見つからないことがあったため、介護タクシーの充実も今後考えてもらいたい。

(事務局)

介護タクシーに課題があるということは、関係部署とも共有させていただく。

(石井委員)

基本方針ができた当時とは状況が異なり、バス路線の減便・廃止が地域住民には重くのしかかってきている。移動支援について新たな対応が検討されるべきだと考える。

それと同時に、千木良診療所は令和9年度に廃止になるが、バスの減便により、バスで行くことが大変となるため、対応を具体的に考える必要がある。千木良診療所の患者が今後、どういう希望があるかを伺うなどし、きめ細かな対応をする必要がある。きちんとした対応をしないと大変なことになる。

(関戸委員)

ロジックモデルの取り組み内容についての説明があったが、このロジックモデルを取り組めば統合の問題がうまく進むとは思えない。今までやってきたことを羅列しているだけに感じる。

私は、診療所の存続を求める会として活動しており、千木良地区の600世帯に診療所が無くなることに対してアンケートを実施した。回答は55世帯ほどであったが、行く方法がない、バスも減りとても困るという意見であった。

意見の中には、「分院として週1回でも残してもらえれば安心。年を取ってバスに乗るのも大変。歩いて行けると安心。ぜひ診療所を残してもらいたい。」という意見もあった。

診療所の統廃合は、決まったことではあるが、8人乗りのワゴン車など千木良地区の細部から内郷診療所まで巡回するような対応をしてもらいたい。このような細

かいことをやっていただかないと、千木良には本当に人が住めなくなってしまう。

(事務局)

通院手段の確保については従前より課題として認識しているところ。ただ、診療所の再編については、診療所の近くに住んでいる方にとっては、遠くなるという部分はあるが、地域全体を見て、在宅診療の需要が増える中で、対応できる医療体制を整えることを基本方針として定めたところ。

また、通院手段については千木良診療所からは内郷診療所のほか、駅前にある診療所に行くことが考えられ、減便されるがバス路線は残る。まだ、最終決定はしていないが、乗り合いタクシーについても千木良地区への停留所の配置について調整しているところである。

交通手段の確保は、医療だけでなく、生活全般に関連するため、これまでも様々な部門と連携して検討していく必要があると申し上げてきたところだが、地域の方には乗り合いタクシーもぜひ活用していただきたいと考えている。

乗り合いタクシーもある中、医療だけまた別の交通手段があり、それによって乗り合いタクシーが使われなくなってしまうと影響が出てしまう。

移動手段の確保については、いただいたご意見をしっかり受けとめ、交通部門と一緒に検討して参りたい。

(土肥委員)

千木良に通っている患者について、来年の4月以降にどのような診療を希望しているのかを確認していく必要がある。地理的に内郷診療所、原田医院、梶原医院に転院する患者が多いと思うが、それぞれ専門がある。

診療情報提供書を一人ひとりもらい、丁寧に対応し、患者が安心して医療を受けられるようにすることが必要である。

私もできることは何でもするつもりでいる。千木良の患者の意向が一番なので、きめ細かく聞き取りをする必要があると思っている。

乗り合いタクシーの停留所は千木良には必要であると考え。先ほど、千木良診療所と内郷診療所の間を巡回する車両を走らせたかどうかという意見もあったが、梶原医院や原田医院に通う方もいると思うので、バスが何本あって、それを補う形で乗り合いタクシーをどのように運用していくのかなど、具体的に詰めて行く必要があると考える。

また、オンライン診療についてであるが、内郷診療所で訪問型オンライン診療を行っていた患者の病状が進行していたという事例があった。オンラインで顔を見るだけでなく、歩き方や姿勢など対面で診療していればもう少し早く気づけたかもしれないと看護師と振り返りをしているところである。オンライン診療で事足りるということはないと思っている。

来年の春から、内郷診療所は医師2人体制になるため、準備を進めているが、医

師2人体制での診療がスムーズにできるように、ハード面だけではなく、ソフト面でもドクター同士の連携などもそろそろ考えていく必要があると思っている。

(石井委員)

現在3台運行しているけんこう号について、週1、2回それぞれの地域で病院を回っていくのはどうかと提案しているが、反映されていない。

けんこう号は団体でないと運行できない、介護にかかる事業でないと運行できないなど課題があるが、医療政策課で検討してもらいたい。

(事務局)

けんこう号の活用については、補助金を活用しているところもあり、使い道が限定されている部分もあるが、いただいたご意見も踏まえて、担当課と検討させていただく。

(布施委員)

歯科のことは、これまでなかなか取り上げられることがなかったので、訪問歯科診療についても検討していただきたいと思っています。

中山間地域に歯科医師会に入っている歯科医院が10軒あり、全て医師が1名しかいない状況である。そのため、訪問のためには医院を閉める必要があり、現実的には困難な状況である。

こういった中で、検討していることは、訪問診療を行う際に、市の歯科衛生士が同乗して、患者の歯科の状況を把握して、それをフィードバックしていただきたいと思っている。患者の状況が掴めていないため、市の協力を得て、様々なプランを立てていきたいと思っているので、ぜひお願いしたい。

現状では、輪番制にして医師を派遣するような形を取ることを考えている。

口で食べるということは大事だということを認識いただき、検討会でも今後検討を進めるようお願いしたい。

(青山会長)

歯科は非常に重要なところだと思っている。口からしっかり食べることは、高齢者にとって栄養をしっかりと取っていくことに繋がる。

栄養が取れなければ、フレイルが進んでいってしまう。自分で食べるということを持続していくのは非常に大切なことだと思う。

また、口腔ケアは高齢者の誤嚥性肺炎の予防に非常に効果がある。誤嚥性肺炎で亡くなる高齢者が非常に多いので、やはり口腔ケアをしっかり行う必要がある。歯科の役割は非常に大きいと認識している。

4 その他

(1) 今後の検討会について

意見等なし

(青山会長)

今回の検討会で現在の委員の任期が最後となるため、各委員より、あいさつをいただきたい。

(石井委員)

社協の会長をしており、交通政策課も同席の上、中山間地域の交通に係る会議を開催した。実際に来てもらわないと大変な状況というのが分からないと思う。実情を肌で感じてもらい共通課題として認識してもらうことが大事なことだと思う。

(岩城委員)

私の住んでいる地域は恵まれていて、これまであまり感じていなかったが、会議に出ることによって、困っている人がいるということを実感した。

地域ケア会議で青根地区に買い物ツアーに行ったが、山奥で大変であった。医療として考えたらとても大変と感じた。

百歳体操にも取り組んでいるが、歩けなかった人が参加して、歩けるようになったりして、努力することは大事と感じた。歩ける方は診療所が遠くなくても休みながら行けるようにした方が良いと思う。そのために、要所に休める場所を行政で用意してもらえるとありがたい。

(金子亜古委員)

訪問看護の視点で見た時に、この地域の実態をすごく感じる事ができた。この地域は、特に老老介護、認認介護、精神の方もかなり多くて、医療ももちろん必要なんですけども、医療以外にやはり介護というか、生活支援、家事支援、身体介護が必要な高齢者が多いというのをすごく感じたが、残念ながら、そこに介護・医療が行き届いていないのではないかと、訪問をしながら感じている。

そして、高齢者の認認介護ということで、セルフネグレクトの方もおり、市に相談したこともあったが、うまく連携できないこともあった。今後は、市の力も借りたいと感じている。

また、訪問看護管理者会でも話題になったが、駐車場の確保も難しい課題となっており、路上駐車する時も警察の許可が必要で、スムーズに許可が出ないこともある。駐車場の確保は課題と感じている。

(金子惇委員)

相模原で今、実際に診療しているわけではないが、沖縄の離島の診療所や静岡の僻地で働いていたので、共通するところもある。参加して、地域ごとの課題があるということを感じる事ができたので、個人的にはとても勉強になった。

その課題をどうするのかということに関しては、一筋縄でいかないと感じている。微力ではあるが、相模原の課題に関しては、他の地域での知見を共有したり、実際何か手伝いできることがあれば、これからぜひまた関わっていききたい。

(黒沢委員)

ケアマネージャーとして参加した。1日に70から80km、多い時は150km車で移動している。そこに住んでいる人は車がない中で、本当に大変だと思う。メディカルケアステーションの活用など市の方でも推奨してもらい、連携は取りやすくなった。

検討会の場に乗合タクシーの運転手などに来てもらい話してもらおうとよりリアルな意見が集まって、話が弾んでいくのかとも思った。

また、先ほど話のあった口腔ケアはとても大事だと思うので、介護側でも力を入れて取り組み、健康でいられることをサポートできればと考えている。

(佐々木委員)

市が大変な課題に取り組んでいることは、市民としても本当にありがたいと思った。一方で、これまで通院していた診療所がなくなり、病気になった時の不安は市民にとっては拭いきれない。

今まで八王子で訪問看護に従事していた。4年前に藤野に引っ越し、訪問看護がやりたくて、探したが一軒もなく、診療所にみなしの訪問看護の開設を問い合わせたこともあった。今は、藤野に新しく訪問看護ステーションができて、そこでパートで勤務している。

本当に信号もないところを、6キロも7キロも進んだ山の中の患者宅に訪問し、そこに往診の先生も来ている。患者からは、自分では行けないので、来てくれて助かると感謝される。診療所がなくなった時には、訪問看護、医師、ケアマネージャー、ヘルパー等が横の繋がりを密にして、市民のために往診に行くことが一番の安心に繋がると考える。

訪問看護は、具合が悪くなったら使うものというようなイメージが大きくて、予防で使えるということ市民に知られていない。具合が悪くなる前に早めに看護が入り、早めに病院に行けば、入院しないで済むというケースも今まで経験してきた。

検討会では、訪問看護の話があまり出ないなというのがちょっと印象的であったが、これからは医療・看護・介護で横の繋がりを大切にして、市民の方たちが安全・安心に過ごせるように、これからも検討会を続けていってほしい。

(関戸委員)

具体的に一人ひとりどういった形で内郷診療所に行けるのかを早く詰めていってほしい。市民は不安に思っている。また、藤野については駐車場も狭いのでその部分も対応してほしい。

(土肥委員)

千木良、内郷で勤務して相模湖で28年関わっている。昔は藤野の山間部や城山まで往診に行ったり、毎週看取りをしていた時期もあったりしたが、この25年の間で医療資源も充実してきて、訪問看護や介護、往診する先生が増え、ずいぶんよ

い環境となっている。

要介護4や5の患者については、医療よりも介護が大変な状況である。ケアマネも看護師も多職種連携で患者を診る環境ができています。

北里大学の修学医がこれから中山間地域に出てくるので、若い医師と一緒に地域包括ケアに取り組めるのが楽しみ。診療所が無くなって不安になる方もいると思うが、健康ケアはきちんとわれわれが行っていく。これから知恵を出し合って取り組んでいきたい。

(原田委員)

地域の市民の代表の方の生の声を多く聴けたことが非常に勉強になった。その声を中心に、医療・看護・介護が連携して、問題を取り上げていくことが、この中山間地域の医療にとってとても大切だと思う。

ただ、交通の問題は自助努力では解決しない。この地域は交通さえ活性化すれば活きる地域と考えているので、融通を利かせて交通網を発展してもらいたいというのが私の願いである。

(布施委員)

バスが減って地域の交通は大事だと実感している。自院に来た患者も2時間バスを待つという状況である。高齢者だけでなく市民の交通手段を考えてもらいたい。市長に相談したところ、運転手がいなかったと言われていたので、自ら取り組むしかないと考え、補助金がもらえないかという話までした。この地域を復活させたいという思いでこれからも頑張っていきたい。

(森田副会長)

薬剤師という医師や看護、介護とは違った立場で話を聞いていた。私はこの地域の課題は、交通問題に尽きると思う。利用者と話をしたところ、乗合タクシーを病院に行くために行きと帰りの予約をしたが、帰りの時間が分からず、おおよその時間で予約を取ったが、早めに診療が終わってしまい、3時間待ったという話を聞いた。市民が困らず、納得する体制が取れば良いと思った。

(森田亮委員 (チャット機能にて))

8回に渡り、それぞれの分野の方が集まり、地域の医療について話し合えたことはとても有意義な時間でした。ここで話し合ったことが少しでも反映され、地域医療に役立てたらと思います。今後も森田病院は地域医療に向き合っていきたいと思っています。皆さんのお力添えが必要かと思っています。よろしくお願いします。

(青山会長)

地域ケア会議の代表者や市民代表の方の意見は非常に重要と感じる。今後の検討会においてもそういった意見に耳を傾けてもらいたい。

これまでに8回開催してきたが、これからはとても大事だと思う。中山間地域で暮らす住民の方が、ここに住んでいて幸せだったと感じられるような暮らしができ

るよう、検討会で議論を進めてもらいたい。

5. 閉会

以上

中山間地域医療検討会 委員出欠席名簿

(五十音順)

氏名	選出団体等	出欠
あおやま 青山 なおよし 直善	学識経験者 (北里大学医学部総合診療医学 主任教授)	出席
いしい 石井 ふゆき 冬樹	相模湖地区地域ケア会議地域づくり部会	出席
いしばし 石橋 りょうち 了知	藤野地区地域ケア会議地域づくり部会	欠席
いわき 岩城 みの 美野	津久井地区地域ケア会議地域づくり部会	出席
かねこ 金子 あこ 亜古	相模原市訪問看護ステーション管理者会	出席
かねこ 金子 まこと 惇	学識経験者 (横浜市立大学大学院データサイエンス研究科 准教授)	出席
くろさわ 黒沢 しんご 慎五	さがみはら介護支援専門員の会	出席
ささき 佐々木 ゆかり 由加里	公募委員	出席
せきど 関戸 ひでこ ヒデ子	公募委員	出席
どい 土肥 なおき 直樹	相模原市立国民健康保険診療所	出席
にしやま 西山 やすひこ 保比古	相模原市立診療所の指定管理者	欠席
はらだ 原田 たくみ 工	相模原市医師会	出席
ふせ 布施 あつこ 厚子	相模原市歯科医師会	出席
もりた 森田 いくこ 育子	相模原市薬剤師会	出席
もりた 森田 りょう 亮	相模原市病院協会	出席